

地域は中学生の活躍の場

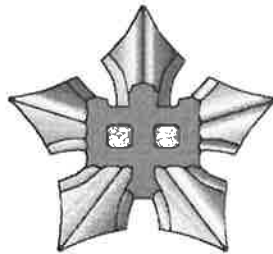
石川台中学校は今年60周年の佳節を迎えます。60年の日々は地域の期待と共にあったのだと思っています。

地域と共にという気風は今も石中生に受け継がれ、地域のボランティア活動に意欲を持って臨んでいます。

石中生は少人数であるために学年を問わず仲が良く、皆協力的です。特に伝統ある生徒会は、役員がリーダーとして生徒の活躍をまとめています。例年、夏の地域のお祭りには多くの生徒が積極的に様々なお手伝いに参加させていただいています。

子どもは未来からの使者です。未来が明るいということは地域の希望でもあり、地域に住む誰もが安堵することとなります。何事にも健気に取り組む石中生が地域の皆様に受け入れていただき、そして活躍の場をこれからも作っていただきますようお願いにはいられません。本校の生徒は「石中は小さいから、一人一人が大事。一人が何倍も頑張らないとならない。」と自覚しています。そのような気持ちをこれからもどんどん育み、地域貢献の石川台中学校となるよう教職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

(石川台中学校長・池田清恵)



就任のご挨拶

平成26年4月1日付けで、山中所長の後任として雪谷特別出張所長に就任いたしました。

私は、長く保育園や児童館に勤務し、大田区の子育て支援に携わってまいりました。特別出張所に勤務することになり、子育て世帯だけではなく、より多くの地域の皆様と出会えることをうれしく思っています。

雪谷地域を歩いてみてまず感じたことは、緑が多く、とても清潔感あふれる気持ちのよいまちだということです。暮らす方々の思いが反映されているのだと感じました。

そのような雪谷で、地域の皆様と力を合わせ、特別出張所が拠点となり、安全・安心に暮らせるまちづくりのために職員とともに努めてまいります。

職員では、山中所長、小川郁夫、小林崇史が他所へ。新たに鎌田弘行、松原由佳里、成田崇史が赴任いたしました。皆様どうぞよろしくお願い致します。

(雪谷特別出張所長・早田由香史)

守ろうよ わたしの好きな 街だから



昨年の都内における刑法犯発生件数は、戦後最悪を記録した平成14年と比較して、約46%減少させることができましたが、空き巣や振り込め詐欺など身近な犯罪が増加したことにより、みなさんに不安を与えているのが現実です。

そこでこのような被害に遭わないための対策についてお話しします。

まず侵入窃盗ですが、昨年の田園調布警察署管内では64件の被害を確認し、特に夜間家人等が就寝中の住宅内に侵入して金品を盗む忍込みが増加しました。もし家人が侵入に気付いた場合殺人事件に発展する可能性のある大変危険な犯罪です。その予防策として短時間の外出でも「部屋の電気をつけ施錠をする」「2ロック式のドアにする」などを心掛ければ窃盗犯人もあきらめる統計が出ています。

次に振り込め詐欺被害についてです。昨年田園調布警察署管内の発生件数は31件、被害総額は約1億円で一昨年よりいずれも下回ったものの、大田区は都内でワースト1位の被害が発生するなど大変厳しい状況です。予防策として、息子等を名乗る者から「携帯電話をなくした」「番号が変わった」などの電話があっても必ず一旦電話を切り、元の電話に掛け直して下さい。また社会保険庁などを名乗る機関から、「医療費等が戻ります」などとの電話があったら「還付金詐欺」ですので絶対に無人ATMに行って手続きをしないで下さい。警察からのお願いですが、予防策として普段から家族で合言葉や確認事項を決めておき、不審な電話を見抜いてすぐに110番して下さい。最後にみなさんと協力して被害のない雪谷地区にしていきたいと思います。



(田園調布警察署 防犯嘱託員・福原力)

編集後記

小生ももう後期高齢者。まずは健康第一と考えできるだけ歩くようにしている。最近、しばらく歩いていないルートを行くとある場所が更地になっている。また、ある所ではマンションが建ち、新築の家が3棟建っていた。ここは以前大きな屋敷があったはずだが？さて、どんな家が建っていたか？

この雪谷地区も人口が多くなった。大都市では一極集中で人口が増えている。一方地方は限界集落、消滅危機集落が出来ているとか。これからの日本はどうか。

(東雪・西本頼雄)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成26年(2014年)あさがお号 7月1日(通巻 第95号)発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい 雪谷

平成26年 7月 あさがお号 通巻第95号

雪谷特別出張所管内(平成26年4月1日現在)

世帯数/29,349世帯(対前年比 513世帯増) 総人口/60,718人

男/29,337人(対前年比336人増)・女/31,381人(対前年比477人増)

※外国人住民の数も含めた数字となります。



大森十中3年 戸塚 琉也さんの作品

ひろばの会に支えられた54年 ～雪谷文化センター～

雪谷文化センターは、東調布公園駐車場前の南雪谷五丁目18番地にあります。

昭和36年に大田区青年館としてオープンし、今年で54年となります。当時の社会情勢としては、米国ケネディ大統領誕生・ソ連が人類初のガガーリン少佐の有人飛行が成功した年です。東京オリンピック開催が昭和39年ですから、それから、3年前で、戦後の荒廃から立ち直り始め、日に日に復興する産業経済の担い手として、若い青年が続々と東京に集まってきました。それら若い人達の健全な育成と、更に青少年の自主的自発的な活動を育て、その発展をはかるために開館しました。

当時は、青年施設としては区内で最初の唯一のものであり、東京都としてもきわめて少ない施設でしたので、近代的かつ模範的なものとして脚光を浴び、遠くから見学に訪れる人も多く、以降建設される青年館の参考になったようです。当時の記録によると、『雑草が高く生い茂った野原の一角に、ぽつんと建った洋館で、前の道路は砂利道で、その両側は草っ原だった。東調布公園ができる前なので、風が吹けば砂ほこり、雨が降ればどろんこ道、それでも、迷惑するのはそこを歩く人だけで、ほこりをまともに受ける民家などは、一軒もない』とあります。

昭和49年、別に青年館が新しく完成したことにより名称が、大田区雪谷青年館となり、昭和60年、青年館から文化センターへと名称が変更されました。約30年の風雪に耐えてきた施設は老朽化に伴ない、平成4年12月に改築され、現在の様相となっています。

そして、雪谷文化センターの年間利用者は約8万5千人で大田区トップの利用率を誇っています。これは地域の皆様が地域活動の拠点としてご利用いただいている結果だと感謝申し上げます。なかでも利用者の会(現在のひろばの会)のご尽力によるものと理解しております。改めまして代々のひろばの会役員皆様に御礼申し上げます。

現在も、ひろばの会加入サークルが100余あるとのことから、その隆盛は衰えることはありません。毎年、ひろばの会に委託して行っている「おまつり」も昨年は、50回記念を盛大に開催いたしました。今年も10月4日(土)と5日(日)に行います。

6月18日より「書家 金澤翔子常設展」コーナーを開設しました。金澤さんは地元の方で、昨年の東京国体開会式での席上揮毫は話題となりました。皆様、近くにいらした際は是非ご覧になってください。
(雪谷文化センター所長・秋元美智子)



翔子 その書の世界 金澤翔子作品展 より

街中の学び

数年前から木彫仏の作り方を教えています。

引退、退職された方が多数ですが、現役世代の方もいます。忙しかろう生活の中で時間を割いてとり組まれている姿に頭が下がります。日々を充実させる手段として選んで下さったことに感謝しています。

便利な機械に囲まれた時代に合わせ、昔なら自然と身についていたであろう工作の心得と無縁に過ごしてきた人もいますので教室の歩みは遅々としたものとなり、講師である私の歩みとよく似ています。

受講者へは、制作中の作品への添削や助言、彫刻刀の使い方等を説明する合間に、仏像全般に関する宗教上の決まり事や美術史上の知識についても自分が知っている範囲内で断片であっても伝えるようにしています。

時として「見方が変わりました。今まで見ていたつもりでもろくに物を見ていなかったのだと気づきました。」と重要であるが伝えにくく、情報ではなく体験で、視覚のみではなく触覚も通さなければ得られない知恵から出た言葉を聞いた時、講師をしていて良かったと思えます。

街中の教室がある意味は、作品が完成させられることの中だけではなく、通った人が学び始める前には意識していなかった物の見方や感覚について気づいて変わっていくことの中にもあるのだと信じています。

(東中・黒住和隆)



作画・黒住和隆

小池自治会の「命を守る地域づくり」

未曾有の大災害、東日本大震災から3年がたちました。被災地では、いまだ復興には程遠い状況が続いています。皆様が1日でも早く元の生活に戻れますようにお祈り申し上げます。

小池自治会は2月23日(日)に自治会館と、けやき公園を使って防災訓練を行いました。日曜日、東京マラソン、底冷えの日と三拍子そろった最悪の日で、近隣にお住いの人々の参加は少なめでした。自治会役員・市民消防隊・消防団・消防署・区役所・水道局の応援を得て、水消火器訓練・災害時応援給水・応援救護・アルファ化米炊出しの訓練を行いました。当自治会は、会員数が多く広範囲で起伏に富んだ場所にあります。役員が全力で奔走しても地域住民の援護はできません。

そこで自治会はきたる災害に対して「自助、近助、共助」を合言葉に災害時ボランティアを募集して共に協力しあい「命を守る地域づくり」を進めてまいります。今回の防災訓練で46名の方々に「小池自治会災害時ボランティア」にご登録いただきました。

今後は登録の拡大を計り、地域の絆づくりと災害時対応訓練、避難所運営の応援、情報相互連絡訓練の参加等、多くの技術、知識を学んで戴き登録者が「近助」の核になって「命を守る地域づくり」の確立をめざし、息の長い運動を展開していきたいと思えます。

なお、自治会では自治会事務所でボランティアを常時募集しています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

(小池・安藤政治)

「子どもガーデンパーティー」のご報告

4月20日(日)洗足池公園にて子どもガーデンパーティーが開催されました。洗足池会場の目玉ともいえる手づくりアスレチックは、子どもたちでたくさんの行列ができ大好評でした！

参加者 計4,288人

(子ども2,086人 おとな1,457人 協力者745人)

参加・ご協力ありがとうございました！

